



**2011 AUTOBACS SUPER GT  
SUPER GT INTERNATIONAL SERIES  
MALAYSIA  
Race Report**

▽6月18日(土)~6月19日(日) セパンインターナショナルサーキット(マレーシア) | コース全長: 5,542m

・6月18日(土)

| 公式練習 10:00 - 11:45 | 公式予選一回目 14:05 - 15:05 スーパーラップ予選 16:30 - |

入場者数 : 15,000 人 |

・6月19日(日)

| フリー走行 9:40 - 10:10 | 決勝 16:00 Start [46 Laps / 254.932 km] | 入場者数 : 36,000 人 |

**D'STATION KeePer SC430**



| Drivers         | Qualifying | Final |
|-----------------|------------|-------|
| 脇阪寿一 / アンドレ・クート | 10 位       | 10 位  |

年に一度の海外ラウンド、SUPER GT 第3戦がマレーシア政府の協力のもと、今年も日本から約7時間のフライト、赤道直下のマレーシア・セパン国際サーキットで開催された。これまで抱えていたクルマの不具合が前戦岡山ラウンドで解消し、そのクルマのポテンシャルを再び確かめるべく、またようやく他のクルマと同等に戦えるという喜びを胸に秘め、満を持して脇阪はこのラウンドへ臨んだ。

## 6月18日(土)

| 公式練習 10:00 - 11:45 | 公式予選一回目 14:05 - 15:05 スーパーラップ予選 16:30 |

入場者数 : 15,000 人 |

○公式練習 | タイム 1'59.299 | 順位 : 10 位 | 天候 : 曇 | コース : ドライ | 気温/路面温度 開始時 : 28 度 / 32 度 終了時 : 32 度 / 38 度



セパン仕様の新たなエアロパーツを装着し、まずは脇阪からコースイン。1月のテスト以来のセパンサーキット。1時間45分の走行時間の中で、走り出しのクルマの状態を確認しつつ、セッティングを煮詰めていく。D'STATION KeePer SC430 は、10番手でこのセッションを終えた。

### -脇阪寿一のコメント-

「これまでのクルマの不具合は前戦岡山で解消できたので、このセパンで走ることをとても楽しみにして来たが、走行を開始するとクルマがまっすぐ走らないという状態だったため、すぐにピットインをした。メカニックにメンテナンスをしてもらい、再びコースに出たが若干出鼻をくじかれるスタートとなった。今回の予選はクートがアタックするので期待して欲しい」

○公式予選一回目 | タイム 1'58.313 | 順位:10 位 | 天候:晴 | コース:ドライ | 気温/路面温度 開始時 34℃ / 44℃ 終了時 35℃ / 46℃

公式予選一回目はその後に行われるスーパーラップ方式の予選に進出するために非常に大切なセッションとなる(公式予選一回目の上位10台のみがスーパーラップへ進出できる。11位以下はその順位で決勝スターティンググリッドが確定)。このセッションもまずは脇阪がコースイン。今回の予選アタックはクート選手が担当するため、脇阪はまず予選通過基準タイムをクリアし、クルマのコンディションの確認、ブレーキローターの



焼き入れなどを済ませ、クート選手へドライバー交代。クート選手もクルマの状態や路面コンディションを確認しつつ、GT500クラス占有走行に備えた。GT500クラス占有走行時間帯に突入すると、ニュータイヤを装着したD'STATION KeePer SC430は10番手につけ、スーパーラップ進出を果たした。

## ○スーパーラップ予選

| タイム 1'57.948 | 順位 : 10 位 | 天候 : 晴 | コース : ドライ | 気温/路面温度 開始時 33℃/44℃ 終了時 31℃/41℃

スーパーラップは公式予選一回目の10番手から走行するため、セッション開始と同時にコースインしたD'STATION KeePer SC430。灼熱のセパンでの決勝レースに備え、固めのタイヤをチョイスしたクート選手は、渾身のアタックにより公式予選一回目のベストタイムを更新するも、他車も同様にタイム更新を果たし、最終的には公式予選一回目と同じポジションである10番手から明日の決勝をスタートする事となった。

## -脇阪寿一のコメント-



「高田エンジニアが手掛けるクルマのポテンシャルは、これまでで一番高いレベルとなっている。今回の予選アタックはクート選手に託したが、予選結果を考えるともう少し上位でのパフォーマンスを発揮できたのではと自分は考えている。何はともあれ、ウェイトを積んでいない今こそ、このクルマのポテンシャルを存分に発揮するレースをしたいと思っている」

## 6月19日(日)

| フリー走行 9:40 – 10:10 | 決勝 16:00 Start [46 Laps / 254.932 km] | 入場者数 : 36,000 人 |

○フリー走行 | タイム 1'59.587 | 順位 : 3 位 | 天候 : 晴 | コース : ドライ | 開始時 : 気温 30℃/路面温度 35℃ 終了時 : 気温 32℃/路面温度 37℃

予選日は思い描いたような展開とはならなかったD'STATION KeePer SC430。決勝日午前に行われるフリー走行はクート選手からコースイン。その後脇阪にドライバー交代し、決勝に向けたセッティングを確認しながら周回を重ね、3番手のタイムを刻み、手ごたえを感じてこのセッションを終えた。

○決勝 / 46 Laps / 254.932 km | 順位 : 10 位 | ランキング : 15 位 | 天候 : 曇 | コース : ドライ | 気温 34℃ | 路面温度 43℃ |



灼熱のセパンでの戦いは現地時間午後4時のスタート。例年、決勝スタートの時間は少々涼しくなり始める時間帯に設定される(日本でのレース開始時刻は原則午後2時)。スタートの約1時間前からスタート進行が始まり、8分間のウォームアップ走行が終了。その後各マシンがダミーグリッドにつくと、スターティンググリッドではダンスパフォーマンスが始まるなど、観衆のボルテージも最高潮に。SUPER GTを歓迎するセレモニーも

催され、マレーシア・日本両国の国歌が斉唱されると、大歓声がサーキットに響く中、いよいよフォーメーションラップ開始となった。スタートドライバーは、クート選手。ローリングスタートにより、グランドスタンドの大観衆の前を駆け抜けて戦いの火蓋が切って落とされた。

スタート直後の1コーナーで他車同士の接触があり混乱が発生したが、クート選手は落ち着いてその混乱をかいくぐると、オープニングラップは10番手でコントロールラインを通過。タイヤが徐々に温まってくるとペースを上げていくクート選手。6周目に100号車のスピンにより9番手に浮上。その後、前を行く39号車をパスし8番手にポジションアップするも、その後はペースの上がらない5番手を行く24号車に36号車、38号車、35号車とSC勢が行く手を阻まれてしまい、数珠つなぎのまま周回を重ねる状況が続いてしまう。

16周を終え、その24号車がピットインすると、これを皮切りにルーティンのピット作業をこなすため、各車続々とピットイン。D'STATION KeePer SC430はピットインのタイミングを見定めながらコース上に留まり23周目の時点で2番手を走行。そして25周目にピットイン。

ドライバー交代、タイヤ交換、給油の作業にとりかかるも、給油作業でミスがあり、1分を超えるピット作業時間となり痛恨のタイムロス。ピットアウトした時点では最下位までポジションを落としてしまうが、周回数はまだ21周残っている。レースを諦めない脇阪の力走がここから始まる。34周目に39号車がドライブスルーペナルティを受け、14番手にポジションアップすると、35周目には12号車をオーバーテイク。給油作業のミスにより予定量の燃料が入っていないことも想定されたため、脇阪は燃費走行を強いられる苦しい展開となっ



いたが、それでも速さを失わない絶妙なドライビングで前を走るクルマを追走していき、41周目には32号車、翌周には23号車と19号車の2台をオーバーテイクし、ポイント圏内の10番手に浮上。ピット作業でのミスがますます悔やまれるばかりだ。

その後、脇阪は集中力を切らすことなく猛プッシュし、前のクルマより2秒も速いラップタイムで快走を続けるも、とらえる事は叶わず。そのままの順位でチェッカーを受け、待望の今季初ポイント獲得した。

-脇阪寿一のコメント-

「開幕からこれまで非常に苦しんで来たが、もうクルマは高いレベルにあると思う。速いペースで走ることができた事がそれを証明している。クルマに改善が見られ良かったと思う。ただ、ピット作業でのミスは残念だった。僕のスタントでは、そのミスにより燃料が足りなくなるかもしれないという状況に陥ったため、燃費側に振ったマップで走らざるを得なかった（燃費走行をせざるを得なかった）。通常のマップ（ペース）で走る事ができていれば、もっと勝負が出来たと思う。ただ、今回のミスはチーム全体の問題として捉え、速やかに改善を図り向上して行きたいと思う。このセパン戦には、今度こそクルマが持つポテンシャルを最大限に活かしてレースを戦えると確信して乗り込んできたので、それ以外の要因でこのような結果になってしまった事は非常に残念だ」

今季2戦を終えてノーポイントで臨んだ今回のレース。誰もがこの状況を打破すべく、意気込みマレーシア入りしたはずだ。チームが犯したミスは大きかったと飯田監督のコメントにもあるが、早急に改善し、チームスタッフ全員で必ずや前進していきたい。



次戦は、7月30-31日、スポーツランド菅生にて開催される。

東日本大震災で多大なる被害を受けた宮城県での開催。東北の地で、東北のみなさんに必ずや笑顔を届けることができると確信している。